

Wat00022 ゾンビパウダーあげちゃおうかな

#0000 ultra 8808171412

ゾンビのウルトラ久保田でございます。  
高知の菊地さん、拙稿へのお誉め（と取ってよろしゅうございましょうね？）  
のお言葉ありがとうございました。

一週間夏休みをいただき、家族と島のリゾートホテルで、水泳、テニスと楽しんで参りました。どうだ、リッチであろう！（と、いいたいが、実態は、朝日の健康組合と契約してる淡路島の保養施設に一泊1500円で泊まってきただけ。トホホ）

よりトホホは、私がお休みしてるうちにフリートークが、アンチ・トロンの梁山泊となってしまう、コンピューター・パープリンチャンの私の住むところが、なくなってしまったこと。仕方なしに、ウオッチに参加させて戴きました。トホホ。

私、あのゾンビは、フグ毒で墓場から蘇るかという、「ゾンビ論争」の取材をして、外国の科学者と日本の科学者の「いかがわしい科学」に対するスタンスの差を大きく感じました。

欧米の科学者って「いかがわしい科学」に対し、賛成であろうが反対であろうが、一流の科学者が自己の名誉をかけて、ちゃんと論争するんですよね。（なかには、本気でやりすぎて、こちらの世界に帰って来なくなるクルックスみたいな人もいますが・・・）

ところが、日本の科学者は、こういうものに拘らないのが「大人」の科学者の態度ということになっている。なんでなのでしょう。君子あやうきに近寄らずでしょうか。まあ、確かに最近是人玉の科学なんてのもありますが。

超常現象でもなんでも、科学的に間違っていると思うものには、あくまで「おかしい」と反論し、常識では考えられなくても、実験データなどが否定出来ないと思えば、超常現象でもなんでも支持する、という真に「科学的」な態度が、なかなか日本の科学者から、現れないのはどうしてでしょうか。やっぱり、「科学」という物の持つ、歴史的、社会的な背景の差でしょうか。

実は、こっそりゾンビパウダーを分けて貰ったのヨーン、どうしても欲しいと言う人には、誰をゾンビにしたいかによっては、特別プレゼントをしてもいいかな、などと考えていないこともない、ウルトラ久保田であった。

#0001 ultra 8808171414

死者をよみがえらせるゾンビパウダー、効き目をめぐり、ホットな科学論争★★

その粉をふりかけると、死者を墓場からよみがえらせ、「ゾンビ」と呼ばれる奴隷にできると言われる「ゾンビパウダー」を、東北大農学部の安元健教授らが入手、分析したところ、パウダーに含まれるフグ毒の麻痺作用がゾンビの秘密とされていたのに、パウダーには、実際にはフグ毒がほとんど含まれてはいないことが判明した。はたしてフグ毒が本当にゾンビ作りの鍵なのかどうか、真夏の夜の夢じみた「ゾンビ論争」が、国際間の科学者で真面目に戦わされている。

フグ毒仮説は、南米・ハイチからこのパウダーを持ち帰った米国ハーバード大の民族植物学者ウェイド・デイビス博士が唱えた説。彼は、ハイチにある未知の麻酔薬を探すためゾンビの謎に挑戦、八二年から八四年にかけてハイチの秘密結社「ビサンゴ」に参加して、ゾンビを作るゾンビパウダーを八種類手に入れた。

どのパウダーにも必ずフグが加えられていることから、ゾンビの謎は、フグ毒・テトロドトキシンの入ったパウダーを犠牲者の体に塗り、毒に因る神経麻痺で仮死状態に一時陥らせ、奴隷として復活させることにあると結論、彼はこの研究でハーバード大の博士号を取得、八五年には冒険談をまとめた著書「蛇と虹」を出版、今年彼は彼を主人公にした同名の映画（邦題・ゾンビ伝説）も封切られ、全米で人気を呼んだ。

ゾンビパウダーが成分分析のために、フグ毒分析の権威である安元教授の元に、送られてきたのは八四年頃のこと。

しかし、テトロドトキシンの液体クロマトグラフィーで、パウダーを百万分の一の含有量まで分析してみても、フグ毒は検出されず、マウス

に注射してもゾンビにはならなかった。

原料だとして送ってきたフグも、元々無毒のハリセンボンの一種だった上、フグ毒が皮膚から吸収されることは考えにくいことなどから、安元教授は、同じようにパウダーからフグ毒を検出できなかったニューヨーク州立のカオ教授と連名で、フグ毒でゾンビになることはあり得ない、とする手紙を毒科学専門誌「トキシコン」に八六年に投稿した。

カオ教授は同じ年に、ハーバード大の学内誌にフグ毒仮説に対するの反論を掲載、今年四月には米国の科学雑誌「サイエンス」までデイビスの研究に疑問を投げ掛ける記事を四ページに渡って載せる騒ぎとなった。

安元教授は「フィクションとして楽しむならいいが、論文としてはテロロトキシニンに対して誤解がある。それに、パウダーの原料にするため子供の墓を暴かせているなど、研究の倫理面にも問題があるのでは」と話している。これら批判に対し、デイビス博士は「パウダーの成分にはばらつきがあるし、呪術師がパウダーの調合にいつも成功するわけではない」と言い、サイエンス誌にも近く反論を載せるとも言う。

医療人類学に詳しい大阪大学医学部の中川米造教授は「ゾンビが生き返るかどうかは別にして、ブードゥー・デスと呼ばれるハイチの宗教の呪殺は、文化人類学では有名な現象。麻酔薬のコカイン、精神鎮静薬のサーペンティーナなど、インドや南米の現地人の民間薬から発見された有効な薬は多く、彼らの医学自体は、決してばかにはできないものだ」と話している。

止

#0002 sci1082 8808201114

ウルトラさん、安元教授という人は日本人でしょ。立派に論争に参加していると思うんだけど？確か朝日の書評欄だったと思うけど、あちらの人の書いた本の中に、なぜ物理学者はUFOを研究しないのかというのが、書いてあったそうではないですか。生産農家がみんなして生産そっちのけで品種改良ばかりやってたらどうなりま

す？

火の玉（人魂じゃないですよ）の科学だって生産が順調で余技にやっているのだと思っ  
ていますがね。

でも確かに、ウルトラさんのおっしゃられるような傾向もあります。縄文杉という  
のが屋久島にありますが、専門家が縄文時代の杉だと言ったわけじゃないらしくて、  
それを言った人は実は私の周りではあまり相手にされていない人なのです。かといっ  
て反論されるでもなし、毎年のように研究発表していますが、ただただ無視されつづ  
けています。一度、「あなたの言っていることはおかしい」と指摘した人もいるよう  
ですが、喧嘩腰の論争になりついには周りから相手にするなと言われたらしいです。

ゾンビに戻れば、「馬鹿にした」のはハイチの住民で、「馬鹿にされて」いるのは  
ウェード博士（なんでしょうね、PhD を取ったのだから）をはじめ論争している人た  
ちかもしれませんよ。

菊地時夫

#0004 ultra 8810071433

朝日新聞科学面に載った記事が、あの「権威」ある（注；その筋では権威  
ということ）雑誌「ムー」（注；いわゆるところの「オカルト」雑誌、出版  
元は良い子の学研）で紹介されました。（注；なさけな一）

紹介された記事は、もちろん、（注；笑いものとなった）死者が復活する「  
ゾンビパウダー」です。（注；なさけな一）。

実は、この権威ある雑誌には、以前にも取材の同行を頼まれたことがあり  
まして（注；昔、t o t oさんらと、長野市の皆神山は、世界最大最古のピ  
ラミッドだといって遊んだときです。みんなが遊んだおかげ＝注の注；とい  
うわけでもないが＝で、今やこの山の入り口には、畳み2畳分の「世界最大  
最古のピラミッド」という大看板がおっ立ち、「ピラミッド調査会」何ての  
が出来て、長野市長が名誉顧問になってしまい、市の調査予算までついてし  
まった！＝笑い＝）、まあ、その時はほかの仕事が忙しく、同行できずに残  
念でしたが。

最近アホなことばかりしてるので、部内外から、あんた来るところ間違えたんじゃない、と冷たい言葉を浴びせられている、ウルトラ久保田であった。  
(注；なさけな一)